

別紙1)	個別の知識・技能 何を知っているか、何ができるか	思考力・判断力・表現力 知っていること・できることをどう使うか	学びに向かう力、人間性 どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか	例
A 表現活動・鑑賞活動を支える知識・理解 ○造形や美術を豊かに捉えたり考えたりするときの視点を実感的に理解 Active Knowledge	1. 形や色彩、材料、光などの要素に着目して造形をとらえる視点を実感的に理解する。 2. 美術作品のイメージや作風など、全体を大きく見て造形をとらえる視点を実感的に理解する。 3. 材料や用具を目的に応じて適切に扱うための基礎的な事柄を経験的に理解する。 4. 美術(作品)に関する基礎的な事柄を実感的に理解する。	11. 形や色彩、材料、光などの要素に着目して造形をとらえる視点をういて造形活動や鑑賞活動を行う。 12. 美術作品のイメージや作風など、全体を大きく見て造形をとらえる視点をういてや鑑賞活動を行う。 13. (美術)作品などを鑑賞し、考えたことをもとに作品などを展示したり、見せたりする活動をする。 14. 目的に応じて、習得した知識・技能を、組み合わせたり編集したりして更新する。	24. 身体を通して世界と関わろうとする態度。(非認知スキル) 25. 探索活動を通して対象を捉えようとする態度。(非認知スキル・試行錯誤) 26. 失敗をおそれず問題解決にチャレンジする態度。(非認知スキル・問題解決能力) 27. 粘り強くとりくむ態度。(非認知スキル) 28. 材料や用具を多様に活用して目的を達成する力。(創造性・ブリコラージュ)	(例1) 形や色を、楽しい、優しいなどの感情効果や、動き、奥行きなどの視点でとらえるなど、造形の要素に着目して捉えたり考えたりするときの視点を実感的に理解していく。 (例2) 「手のような木の葉」「水墨画のような景色」など、全体的なイメージで対象を捉えるなど、造形を捉えたり考えたりするときの視点を実感的に理解していく。 (例3) 絵の具遊びを通して混色による色づくりに気づいたり、ダンボール遊びを通して、材料と用具の関係について理解していく。
B 造形や美術の創造活動を支える技能 ○創造的な技能	5. 意図に応じて材料や用具の特性を生かし、創造的に表現するための技能。 6. 用具を目的に応じて安全かつ適切に扱うことができる。	15. 表したい主題を最も効果的に表現するために、材料や用具の特性を生かし、必要な情報や技法などを比較、選択して創造的に表現するための技能。 16. 表したい主題を最も効果的に表現するために、制作の順序などを総合的に考えながら、見直しをもって表現するための技能。		(例5) 表現の意図に応じて、絵具や筆、水の加減などを工夫しながら、絵を着彩していく技能を獲得していく。 (例16) 板材から部品を切り出す順序や、組み立てや着彩の手順などを考え、見直しをもって制作(製作)する技能を獲得していく。 (例23~28) 造形遊びなどでは、材料のおもしろさや行為の楽しさを軸に探索活動を行い、身体を通して世界と関わっていく中で、ありあわせの材料用具をブリコラージュしながら、試行錯誤し、問題解決に向けて粘り強く取り組むなどの非認知スキルが培われる。
C 主として表現活動を通して思考・判断・表現する力 ○発想や構想の能力	7. 着想や発想したことをアイデアやイメージにまとめる技能。 8. 造形活動を通して、生活の中の美術の働きや美術文化について理解を深める。 9. 表したい主題を自ら見つけ、その実現に向けて必要となる新たな知識や技能を獲得する。 10. 鑑賞活動を通して、生活の中の美術の働きや美術文化について理解を深める。	17. 材料などから発想して、造形を操作しながら構想を練る。 18. 表したい主題を見つけ、自分が感じ取ったことや考えたことなどを、造形により表現するための構想を練る。 19. 他者の立場に立って、装飾、伝達、用途などの目的や機能などを考え、造形により効果的な構想を練る。 20. 対話を通して新しい価値や考え方に気づく。 21. 鑑賞する対象から、必要な情報を自分なりに抽出し、主題に基づく作者の意図や表現の工夫を感じ取り、よさや美しさなどを感じ取り味わう。 22. 協働で対話的に鑑賞活動を行う事を通して創造的に意味生成する。 23. 造形的な要素やそれがもたらすイメージなどの視点から、根拠を持って論理的、批判的に説明する。	29. 個性的表現の理解と尊重に基づき、自己理解、他者理解、相互理解を深める(メタ認知) 30. 相互の表現を共感的に受容し合う中で、自己表現に向かう態度が涵養される(表現的態度) 31. 根拠を持って論理的、批判的に説明する。(アカウンタビリティ・スキル) 32. 自ら問いを立て、その解決に向かう。(問題解決) 33. 自分なりの見方、考え方を客観的に分析し、論理的、批判的に説明する。(メタ認知)(アカウンタビリティ・スキル) 34. 美術を通じた人間理解を深める。 35. 美術における個性と社会性の高次における調和的統合は、学習における自律と協調を生み出す。(自律と協調) 36. 自らの感性や価値観と同様に、他者の感性や価値観を尊重し、協働することができる。(他者理解と協働) 37. 自らが感じたり考えたりしていることを、創造的に表現し伝えることができる。アカウンタビリティ・スキル) 38. 自らの感性や価値観に基づき、自分らしい選択や自己決定ができる。(自己決定) 39. 自らの感性や価値観に基づき、より良い生活やより良い社会の実現に向けて創造的に取り組むことができる。(創造的態度、社会/文化横断的スキル) 40. 美的価値などの実現に向かい自己の可能性を最大限に発揮しようとする。(自己実現に向かう態度) 41. 文化の尊重と創造の重要性の認識を深め、社会において実践することができる。(社会/文化横断的スキル)	(例17) 色の感じや材料に触れた感じ、並べた時のイメージなどから、自分にとっての心地よさや楽しさなどを考えて構想を練っている。 (例18) 風景を見て感じたことや物語などを読んで思いついたイメージなどから表したい主題を見付け、配置や大きさ、色彩などの効果を考え表現の構想を練っている。 (例19) 教室の表示板を作成するために、教室を象徴するものやイメージなどを考えて図案化し、文字と組み合わせ美しく分かりやすい表示板の構想を練っている。(例26) 自他の違いを個性的表現として尊重し合うことができるようになることで、自己理解、他者理解、相互理解が深まっていく。 (例30) 自己表現することへの抵抗が軽減される環境により創造活動に没頭することができる。 (例32) 自ら主題を生成することを通して、自ら問いを立てる力を育てることができる。 (例33) 美術作品の鑑賞活動において、客観的に分析し、論理的、批判的に説明するスキルを働かせて自分なりの見方や考え方を説明する。 (例34) 自己や他者の作品から、自己と他者の表現の相違や共通性に気づき、相互理解をし、美術を通じた人間理解を深める。 (例35) 図画工作や美術の学習では、表現と鑑賞を相互に関係させて学ぶため、チーム学習などの協働的(主体的、対話的)な学習活動が中心となり、自律と協調の態度が発揮される。 (例38) 主題を生みだし、構想を練り、創造的な技能を発揮するあらゆる場面で自己決定が求められる。
D 主として鑑賞活動を通して思考・判断・表現する力 ○鑑賞の能力				(例10) 生活の中の造形や美術を比較したり共通性に着目して捉えたりすることで、生活の中の美術の働きや美術文化について理解を深めている。 (例20) 対話的な鑑賞活動を通して、互いの意見が交流し合うことで、多面的な見方や深まりのある考えが生まれ、これまでになかった新しい価値や考え方に気付いている。 (例21) 鑑賞する対象から、必要な情報を取り出し、造形的なよさや美しさ、作者の意図や現の工夫などを感じ取り、作品などに対する自分の考えを持つことができている。 (例22) 対話による鑑賞を通して、自分の見方を明確にさせたり更新させたりしながら作品の主題に迫っていくことができるようになる。 (例23) 作品などに対する自分なりの見方、考え方を客観的に分析し、根拠を示しながら論理的、批判的に説明している。
E 造形活動・鑑賞活動への関心・意欲・態度			42. 美術と豊かに関わり、生活を心豊かにする態度を養う。 43. 美術文化の継承と創造への関心を高める。 44. 生涯にわたって美術を愛好する心情を育てる。 45. 美しいものにあこがれ、それを大切にしようとする豊かな情操を養う。 46. 美術に対して興味や関心を持ち主体的に学ぼうとする。 47. 芸術における想像力の働きにより、共感性、愛他心、自然や生命への畏敬の念が育つ。	(例42) 生活の中の造形や美術のよさに気づき、それらと豊かに関わることで、生活を心豊かにする態度を養う。 (例43) 我が国や諸外国の美術の伝統や文化のよさや価値に気づき、美術文化の継承と創造への関心を高める。 (例44) 表現や鑑賞の創造活動の楽しさを実感する人で、生涯にわたって美術を愛好する心情を育てる。 (例45) 表現や鑑賞の活動を通して、美しいものにあこがれ、それを大切な価値として求めようとする豊かな情操を養う。 (例47) 表現や鑑賞の活動を通して、自然の美しさなどを実感することで、自然や生命への畏敬の念を育成する。